

平成18年10月24日		於：岐阜商工会議所内経済記者クラブ
担当部	担当者	電話番号
情報支援部	主任研究員 川合 浩	058-277-1085

「岐阜県企業のIT活用に関する調査研究」結果について

調査研究の趣旨

本調査は、過去に「岐阜県企業のIT活用実態調査」として3回（H12年度、H14年度、H16年度）実施してきた。今回は、岐阜県企業（製造業）におけるIT活用の実態等を把握し、IT活用状況の変化を明らかにすること、2007年問題等により、技能伝承が製造業の課題と思われ、技能伝承のIT活用策と今後の方向性を検討することを目的とし、アンケート調査を中心にして実施した。

調査研究のポイント

県内企業のIT活用の実態はどうなっているのか、過去の調査と比べて、どう変化しているか。県内企業の情報機器及びソフト等の導入状況を把握する。

県内企業において、2007年問題等で技能伝承の不安があるか、技能伝承の対策がなされているか、技能伝承にITを活用しているかについて調査し、ITを活用することで技能伝承ができるのではないかについて検討する。

まとめ

IT活用の実態としては、情報化機器の導入、インターネットの接続端末の配備等の、IT導入が進んだが、システムの維持管理ができる人材や情報技術を経営戦略に活かせる人材が不足しているという結果であった。今後の問題点としては、情報セキュリティに不安があるという答えが特に多かった。

技能伝承手段としてのIT活用の意識調査では、6割以上（63.7%）の企業が技能伝承について不安があると答えている。現在の伝承方法としては、熟練者による口頭や実演が67.8%と最も多い。また、技能伝承にITを活用している企業は6.9%で、技能伝承にITをできれば活用したいが54.2%あり、約6割の企業が技能伝承にITの活用を考えているという結果になった。県内企業は技能伝承への不安が強く、多くの企業が技能伝承にITの活用を考えている。

担当者コメント

県内製造業のITの導入は、一定の水準まで進んできている。しかし、ITが経営に活かされていないのが、現状である。今後の課題はIT導入により経営課題を解決し、IT経営の確立を図ることである。その為には、経営戦略や経営課題を明確にし、その解決に最も適合するシステムを導入することが重要なことだと思われる。多くの県内製造業が技能伝承に不安を持っている。熟練技術者の高齢化が進み、技

能伝承の対策が急務となっている。ITを活用した技能伝承を考えている企業は多いが、実際に行っている企業はまだ少数である。技能伝承にITを活用することは、多くの効果があるので、積極的な活用が望まれる。